順位	氏名（議席）	発言の要旨
15	小野 泰正（6）	<p>1. 富士市の持続可能な観光と環境保全のための登山道等の整備について</p> <p>海から富士山までである唯一の市として、多くの方に本市の魅力を知ってもらうため、平成27年7月に富士山登山ルート3776を制定し、昨年も520名もの達成者が出ました。また、今年から富士山登山に入山料が4000円かかるようになったことから、富士山周辺での低山ハイクも人気が出てきており、富士市でも多くの観光登山客を見かけるようになりました。一方で、登山客が増えたことに加え、近年の大雨により多くの登山道で浸食や崩落が起き、傷んできているところが見られます。ルート3776で例示しますと、3合目付近に当たる富士山自然休養林ハイキングコースのBコースでは、崩落が起り一部区間が通行止めになっています。また、Cコースでは、登山道部分が水路になってしまい、近くの歩けそうなところに新たな登山道ができてしまっています。このように、登山道の管理整備がうまくいっていないことが原因で、国立公園であるにもかかわらず、観光登山が原因で環境破壊が起りつつあるという状況です。そこで以下質問をします。</p> <p>(1) ルート3776をはじめとした富士山自然休養林ハイキングコースや登山道の管理の現状と課題、管理体制はどのようになっていますか。</p> <p>(2) 他市では、登山道の整備技術方針や観光登山ガイドラインなどを作成し、観光客、市民、企業などの団体やボランティアが国縣市と共に環境保全とともに登山道の整備を行っている事例が見られますが、富士市では行えないのでしょうか。</p> <p>(3) デジタル技術を用いることで、クラウドファンディングによる登山道等の整備費の受付や、オンライン決済による入山料の徴収、入山届の電子申請や観光情報の提供、登山者側からの危険箇所の報告など、観光の利便性の向上や安全性の確保と、環境保全を両立させる取組は考えられるでしょうか。</p>